

2019年6月29日

関係各位

会社名：三井物産株式会社
代表者名：代表取締役社長 安永竜夫
(コード番号：8031)
本社所在地：東京都千代田区丸の内
一丁目1番3号

ロシア・Arctic LNG2 プロジェクト参画に関する持分売買契約締結

三井物産株式会社（本社：東京都千代田区、社長：安永竜夫、以下「三井物産」）は、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「JOGMEC」）と共同出資する蘭国 Japan Arctic LNG B. V.（以下「JAL BV」）を通じて、ロシアの天然ガス生産・販売大手 PAO Novatek（以下「Novatek」）が推進するアークティック LNG2 プロジェクト（以下「本プロジェクト」）に参画すべく、プロジェクト会社アークティック LNG2 社の持分を 10%取得することで Novatek と合意し、2019年6月29日に持分売買契約を締結しました。関係許認可取得次第、持分取得が完了する予定です。JAL BV への出資比率は JOGMEC が 75%、三井物産が 25%になります。また、本プロジェクト参画にあたっては、当社出資部分につき、株式会社日本貿易保険（NEXI）による海外投資保険引受を予定しております。

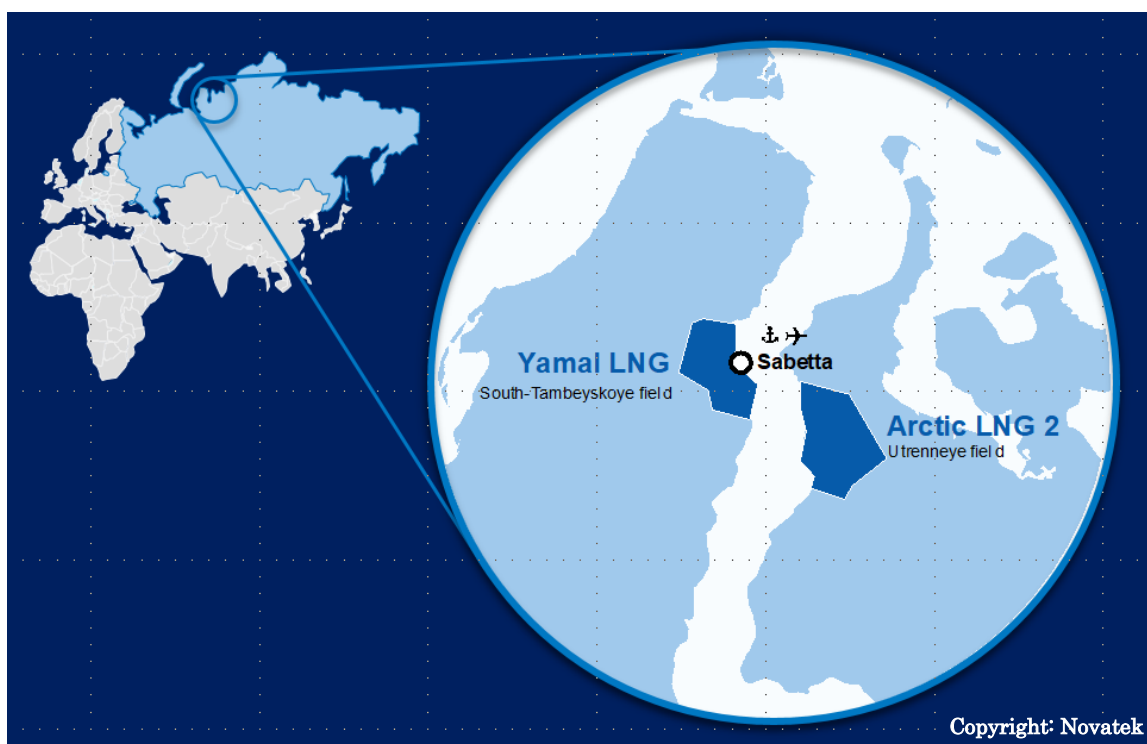
本プロジェクトは、北極圏にあるロシア連邦北部ギダン半島の在来型陸上ガス田を開発し、年間 1,980 万トンの生産能力を持つ天然ガス液化設備を建設するものです。Novatek は既に近隣のヤマル LNG プロジェクトを 2017 年より生産開始しており、本プロジェクトはロシアの北極圏に於ける 2 つ目の LNG プロジェクトとなります。Novatek による総開発費見積は現状約 210-230 億ドル（約 2.2-2.5 兆円）であり、参画後、事業パートナーとの最終投資決断を経て、2023 年頃からの LNG 生産開始を予定しております。生産された LNG は北極海航路を通じてアジア及び欧州を中心に供給される予定です。本プロジェクトには Novatek の他、仏トタル、中国石油天然気集団（CNPC）、及び中国海洋石油集団（CNOOC）の各子会社が 10% 参画を決定しております。

三井物産は 1970 年代のアブダビ LNG プロジェクト参画を皮切りに、豪州、カタール、オマーン、ロシア、インドネシア、赤道ギニア、米国、モザンビークなど世界各地の LNG プロジェクトに参画し、LNG の生産、輸送、マーケティングまでのバリューチェーン全般に亘って、幅広く展開してきました。三井物産はこれまでに蓄積した LNG 事業の知見と、産ガス国やプロジェクトパートナーとの関係を活かし、LNG 事業の更なる展開を通じて、日本を始めとした世界各国へのエネルギーの安定供給に向け資源の確保に貢献して行きます。

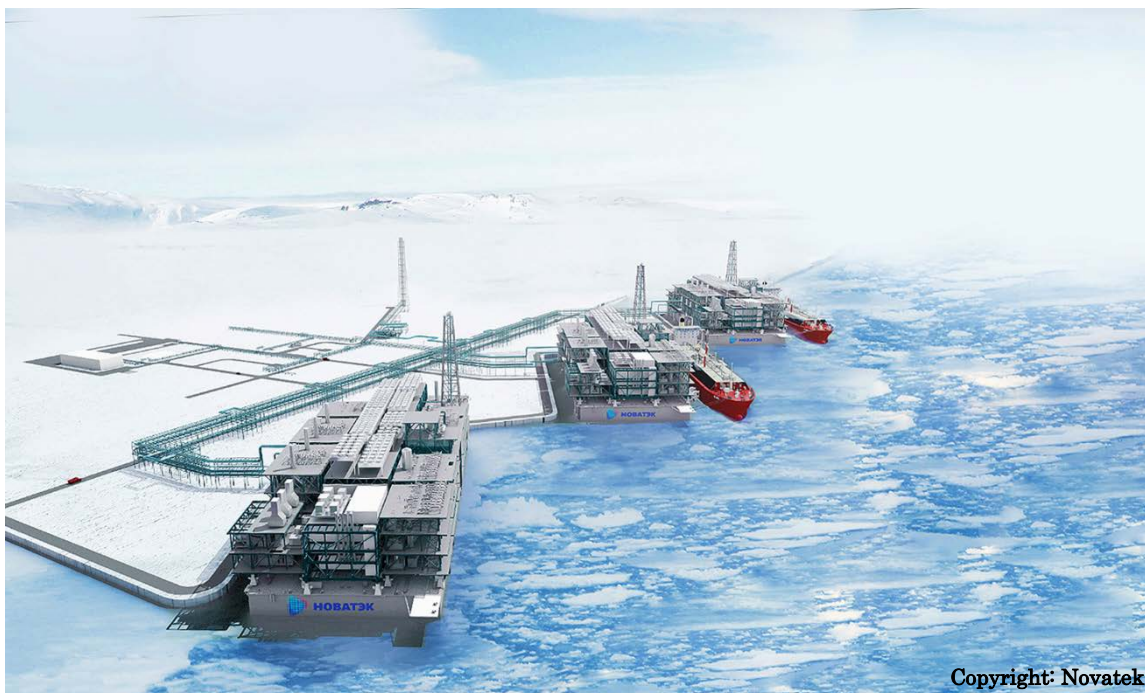
【本プロジェクト概要】

鉱区	ウトレニエ ガス・コンデンセート田
鉱区位置	露ヤマロ＝ネネツ自治区、ギダン半島
株主構成(当社参画後)	Novatek 60% 仏トタル 10% CNPC 10% CNOOC 10% Japan Arctic LNG B.V. 10%
生産量(予定)	LNG 年産 1,980 万トン (660 万トン×3 系列)

【プロジェクト位置図】



【LNG プラントイメージ】



本件に関する問合せ先：三井物産(株)

IR 部 TEL：03(3285)7910

広報部 TEL：03(3285)7540

ご注意：

本発表資料には、将来に関する記述が含まれています。こうした記述は、現時点で当社が入手している情報を踏まえた仮定、予期及び見解に基づくものであり、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包するものです。かかるリスク、不確実性及びその他の要素によって、当社の実際の業績、財政状況またはキャッシュ・フローが、こうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。こうしたリスク、不確実性その他の要素には、当社の最新の有価証券報告書、四半期報告書等の記載も含まれ、当社は、将来に関する記述のアップデートや修正を公表する義務を一切負うものではありません。また、本発表資料は、上記事実の発表を目的として作成されたものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。